

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	保育内容総論				
担当者氏名	荘司 泰弘				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・春期

《授業の概要》

認定こども園での実習を前提にこどもの発達を眺める5つの窓口、「環境」、「人間関係」、「言葉」、「表現」、「健康」の基礎知識を概説する。宣言保育を脱し、こどもの活動を援助するための各領域の保育技術を身につける。

《テキスト》

文部科学省、厚生労働省のネットを使用する。

《参考図書》

資料は授業内で随時配布する。

《授業の到達目標》

認定こども園に必要な専門知識・技能を身につける。
 発達年齢に応じた各領域の内容を学ぶ。(プラン)
 生命を伝えるための援助を理解する。
 自然をガイドラインに保育する。(チェック)
 こどもを取り巻く学習環境を改善するための感性を持つ。
 発見学習環境を調整する。(アクション)

《授業時間外学習》

「環境」、「人間関係」、「表現」、「健康」、「言葉」の5領域の演習科目を再認する。

《成績評価の方法》

知識に関する評価 試験 50% レポート 20%
 技能に関する評価 成果発表 30%

《備考》

出席は欠格条件です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業内容を概説し、評価や授業の方法について説明する。
2	環境による援助と指導	「総論」として、乳幼児は指導(命令・制限・干渉)行為に左右されることを指摘し、こどもの主体的活動を援助することを説明する。
3	領域と教科の違い	「総論」として、乳幼児の活動は複合領域の「ながら活動」であるため、教科とは質的に異なることを指摘し、総合的視点として領域の概念を説明する。
4	異年齢同集団の意義	「環境」領域として、同年齢同集団の横割りクラス活動が乳幼児に適さないことを指摘し、縦割りグループで発見学習を援助する異年齢同集団活動の意義を説明する。
5	保育者と遊ぶ大人	「環境」領域として、大人が演じる限界を指摘し、こどもがこどもを教えるために20歳児という遊ぶ大人になる必要性を説明する。
6	試行錯誤の感覚体験	「人間関係」領域として、画一的斉指導やマニュアル化の危険性を指摘し、試行錯誤の柔軟な感覚体験をするため、紙芝居やエプロンシアターを体験する。
7	一致・受容・共感	「人間関係」領域として、保育者の人間性が乳幼児に影響することを指摘し、自己一致、無条件の受容、感覚の共有をするため、鬼ごっこや仲間遊びを体験する。
8	総合的直観感覚	「表現」領域として、保育は感覚による援助であることを指摘し、総合感覚として直観の表現をするため、感性トレーニングや壁面構成を体験する。
9	感情移入と創造性	「表現」領域として、生得的な感情移入傾向と建設性を結びつける創造的活動衝動の発想を紹介し、1歳から5歳までの年齢別手遊びを体験する。
10	発達特性と障がい	「健康」領域として、競争原理に基づく連続発達観の弊害を指摘し、共同原理に基づく螺旋発達観の発想として「みんなちがってみんないい」を紹介する。
11	カウンセリングマインド	「健康」領域として、障がい児の支援や擁護の発想としてカウンセリングマインドを紹介し、マザリングやだっこの仕方を体験する。
12	原風景・原体験と言葉	「言葉」領域として、文字や言語指導の問題点を指摘し、話したい衝動や伝えたい気持ちを育てるため、ベビーサインやボディランゲージを体験する。
13	言葉によらない意思疎通	「言葉」領域として、言葉の指導が方法論に走っている問題を指摘し、絵本の読み語りやストーリーテリングを体験する。
14	危機管理	「総論」として、保育現場で想定されうる危機状態と保育者としての対応事例を紹介し、「こどもを守る」という体験をする。
15	保育参加	「総論」として、保育現場で実際に乳幼児と接してみる。保育参加レポートを課し、保育参加した際に生じた疑問に応え、まとめとする。